

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2005～2008

課題番号：17202005

研究課題名（和文）法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究

研究課題名（英文）Research on Illustrated Biography of Prince Shotoku, one of the Horyuji Treasures

研究代表者

原田 一敏（HARADA KAZUTOSHI）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・上席研究員

研究者番号：20141989

研究成果の概要：

国宝・法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝、全10面について場面内容の同定と描写内容の精査、当初の地である綾地の精査を行った。また高精細デジタル写真の撮影、1面ごとの合成を行い、あわせてX線フィルムをデジタル化し、同様に合成することにより、両者を対照可能なデータとする基本資料の作成を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	19,000,000	5,700,000	24,700,000
2006年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2007年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2008年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
総計	35,100,000	10,530,000	45,630,000

研究分野：日本美術史

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：法隆寺献納宝物、聖徳太子絵伝、東京国立博物館、絵絹、高精細画像

1. 研究開始当初の背景

東京国立博物館が保管している法隆寺献納宝物中の国宝「聖徳太子絵伝」10面は、もと法隆寺東院の絵殿を飾っていた障子絵で、文献により秦致真（貞）が延久元年（1069）に描いたことが知られ、遺品の少ないわが国の古代絵画史上の基準作として、また数多く残る鎌倉時代以降の聖徳太子絵伝の嚆矢として、きわめて重要な作品である。絵絹として用いられている綾もまた、古代の染織遺品として貴重であることはいままでもない。

しかしながら、現在に至るまで、本絵伝について詳細な研究がなされているとはいえない状況であった。その大きな原因は、建武5年（1338）をはじめ数次にわたる修理により、画面にほどこされた補絹や補彩の複雑さに加え、永年の劣化による絵絹、絵具の消失によるものといえるものであった。したがって、現在残っている描写の詳細な確認と、当初に描かれた部分と後補の部分とを判然とさせることがなされていなかった。

以上のような理由により、本絵伝がその貴重さにも関わらず、文化財としての実相が判

然とせず、研究者の間でもその状況、位置づけの基礎資料が共用されていない状況であったといえよう。

2. 研究の目的

前記のような背景により、本法隆寺献納宝物本「聖徳太子絵伝」については国外はもとより、国内の近代以降の長い美術史研究の歴史の中においても、その全体についての詳細な研究がなされているとはいいがたかった。本研究はその詳細な調査を行い、文化財としての実相、すなわち、何がどのように描かれているか、修理による後補がどのようになされているかについて、当初の部分がどれほど残されているかについて、詳細な調査を行い、またこれによって、将来の研究の土台となる公開可能なできり客観的な基礎資料を作製することにより、本絵伝研究のさらなる進展に寄与することを目的としたものであって、これまでなされていなかった画期的な調査研究となると考えたものである。

3. 研究の方法

法隆寺献納宝物「聖徳太子絵伝」全10面について、現在確認できる図柄を各分野の研究者を交え、確認をおこない、その客観的記述を人物ひとりひとりに至るまで行った。同時にまた補絹、補彩部の確認を行った。また、絵絹の詳細な観察を行う。

さらに機材を購入することによって、高精細画像を撮影、デジタル化して合成し、X線画像を同様に処理して比較検討ができる資料を作製した。

また、本絵伝が当初綾地に描かれたものであることから、同様に綾地に描かれた作品である奈良・子島寺蔵・両界曼荼羅、さらに描写の比較検討のため、同時代のやまと絵絵画である京都・東寺蔵・山水屏風の調査、現在法隆寺東院絵殿にのこされている江戸時代天明期の模本はもとより、鎌倉時代以降の他本の聖徳太子絵伝の調査等も併せて行った。

4. 研究成果

(1) 本絵伝は、聖徳太子の年齢ごとの事跡が画面各所に配置されるが、必ずしも年代順に整然と配置したものではない。これらを各事跡ごとに場面内容の同定と描写内容の精査を行った。これまでも数人の研究者による記述は行われていたものの、研究者によ

って見解や描写の解釈に微妙な相違や記述の精粗があったものを、これまでになく詳細、正確な把握につとめ、これを記述することができた。具体的には

- ① 各事跡場面の構図、人物一人ひとりの衣服や姿勢に至るまで、描写を精査、記述した。
- ② 聖徳太子の伝記テキストである『聖徳太子伝暦』の記述との照合を行った。
- ③ 法隆寺に現在のこる江戸期の模写「天明模本」の調査をおこない、これとの比較を行った。模本と原本の間にいくらかの相違があることも明らかになった。
- ④ 本絵伝以降に描かれた絵伝諸本に先行する可能性のある図様を検討できたことにより、本絵伝の位置を研究する基礎となったと考える。

(2) 本絵伝の各場面の多くには色紙形があり、内容を記述した墨書がある。これについて

- ① 本絵伝の色紙形銘文の翻刻
- ② 色紙形の現状、補絹、補彩の状況の確認をおこなった。

(3) 本絵伝の綾地の精査を行った。第五・六面に最も古いと思われる立湧文(たてわくもん)綾の部分に緯糸6枚、経糸3枚の綾地を確認することができた。また今回の重要な所見として、これまで綾地の部分が当初と単純に考えられてきたが、この立湧文のほか、花唐草文、花菱文の綾も見出された。今後後述する高精細画像をもとにさらなる綾地の精査、検討を要することが明らかになった。

光学的調査に関しては次のような調査を行った。これを研究者に広く共有できる形態とすることによって、今後の研究に大いに資するものであると考える。

- ① 全10面にわたり、1面ごとに153分割の高精細デジタル写真を撮影し、1面ごとに合成することも行った。
- ② また過去の修理の際に撮影されたX線フィルムをデジタル化し、一面ごとに合成した。
- ③ これらを対照可能なデータとした。
- ④ これを広くアクセス可能な資料として公開することを目指し、その方法を検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計2件)

①東京国立博物館 『法隆寺献納宝物特別調査概報XIX 聖徳太子絵伝2』 2009
9 1^頁

②東京国立博物館 『法隆寺献納宝物特別調査概報XVIII 聖徳太子絵伝1』 2008
8 6^頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松原 茂 (MATSUBARA SHIGERU)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・上席研究員
研究者番号：50000352
(平成20年9月29日まで)

原田 一敏 (HARADA KAZUTOSHI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・上席研究員
研究者番号：20141989
(平成20年9月29日交替)

(2) 研究分担者

神庭 信幸 (KAMBA NOBUYUKI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課・課長
研究者番号：50169801

澤田 むつ代 (SAWADA MUTSUYO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・上席研究員
研究者番号：40215918

沖松 健次郎 (OKIMATSU KENJIRO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部企画課出版企画室・主任研究員
研究者番号：30332133

和田 浩 (WADA HIROSHI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課環境保存室・研究員
研究者番号：60332136

小山 弓弦葉 (OYAMA YUZURUHA)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部調査研究課工芸・考古室・主任研究員
研究者番号：10356272

行徳 真一郎 (GYOTOKU SHINICHIRO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・文化財部保存修復課保存修復室・主任研究員
研究者番号：20234411
(平成19年度まで)

三浦 定俊 (MIURA SADATOSHI)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・副所長
研究者番号：50099925
(平成19年度まで。20年度連携研究者)

早川 康弘 (HAYAKAWA YASUHIRO)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・保存修復科学センター・分析化学研究室長
研究者番号：20290869
(平成19年度まで。20年度連携研究者)

若杉 準治 (WAKASUGI JUNJI)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸課・列品管理室長
研究者番号：20150039
(平成19年度まで。20年度連携研究者)

谷口 耕生 (TANIGUCHI KOSEI)
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・学芸課保存修理指導室・研究員
研究者番号：80343002
(平成19年度まで。20年度連携研究者)

村重 寧 (MURASHIGE YASUSHI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40000319
(平成19年度まで)

田沢 裕賀(TAZAWA HIROYOSHI)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部調査研究課絵画・彫刻
室・室長
研究者番号：80216952
(平成20年度)

小林 達朗(KOBAYASHI TATSURO)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部調査研究課絵画・彫刻
室・主任研究員
研究者番号：10342940
(平成20年度)

(3)連携研究者
研究分担者欄に記載